

PERCUSSION

ワンポイント・アドバイス

I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

- ・まずはセッティングについてですが、バスドラムとシンバルは対と考えて、隣り合った場所に配置するのが良いでしょう。また、マーチにおいてバスドラムはしっかりと点（ビート）を出してあげる事が大切なので、左手で程よくミュートをしながら響きを調節しましょう。
- ・グロッケンには、ほぼ高音の管楽器と同じフレーズを演奏するので、アンサンブルをしっかりと意識しましょう。また、116小節目からのフレーズは、スラーをしっかりと意識して歌う事が大切です。
- ・スネアドラムは、軽やかに演奏したいので、チューニングが低すぎない方が良いでしょう。（目安はAくらいの音程。）
- ・ヴィブラフォンは、音数が多く動きが細かいので、ペダリングが難しいです。踏みっぱなしだと音が濁ってしまうので、1フレーズの中でも何回か踏みかえが必要です。または、ペダルを半分ほど踏み込む“ハーフペダル”をうまく使うのも良いと思います。

II ポロネーズとアリア ~吹奏楽のために~

作曲：宮下 秀樹

- ・ティンパニが演奏する【A】アウフタクトDの音は、ドミナントのとても大切な音です。力強く、そして同じフレーズの低音楽器の人と呼吸をそろえて演奏しましょう。
- ・【C】からのカスタネットは難しく、オーケストレーションも薄く、とても目立ちます。まずは、ロールをしっかりとできるように練習して、リズムと組み合わせていく形で、丁寧に練習しましょう。
- ・29小節目からのタンバリンは、三連符がとても速いので、シングルで難しい場合は指を一本ずつ使った奏法が良いかもしれません。（ピアノカの指使いで4.3.2.1のように。）
- ・78小節目からのロールのクレッシェンド、デクレッシェンドは、ドラマティックな山が作れるよう、きれいなロールを目指してよく練習しましょう。

Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

- ・ドラムセットはリズムの中心となるので、グルーブ感を作りだせるよう意識しながら練習していきましょう。また、リムショットにおいては『スティックのどこをリムにあてるか』や、『スティックの素材』でも音色が大きく変わってきますので、こだわって研究してみてください。
- ・まず、コンガはチューニングを確認してみましょう。長らくチューニングをしていない楽器は、ヘッドが緩んでいる可能性が高いので、音程を上げて乾いた良い音が出るようにしましょう。グリッサンドは、ヘッドの上で中指をすべらせるようにして音を出します。コツがつかめるまで何度も練習しましょう。
- ・ヴィブラフォンは、この曲の空気感を作るうえで、しっかりと出て欲しい楽器の一つです。マレットは少し重めものを選ぶと（音がしっかり飛ぶので）良いと思います。
- ・曲への理解を深めるために、1970～1990年代のポップスを是非聴いてみて下さい。

Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口透

- ・冒頭のバスドラムとシンバルに、いきなりヘミオラのリズムが出てきますが、つかみにくいのでよく練習をしましょう。練習法として、メロディを口で歌いながら、自分のパートを手拍子してリズムの組み合わせをしっかりと理解しましょう。練習で出来たら楽器でもやってみる、というのが良いかもしれません。
- ・スネアドラムは、6/8拍子の軽快なノリを表現できるようにしましょう。また、装飾音符がたくさん出てくるので、よく練習をしておきましょう。145小節目からはスティック運びが忙しく、リズムが崩れやすいので注意しましょう。
- ・グロッケンメロディは、同じフレーズを吹いている管楽器の人と、よくアンサンブルしましょう。【E】からは旋律の合いの手です。強弱記号はpですが、良い音が鳴らせるように丁寧に弾きましょう。